

今、何の病気が流行しているか！

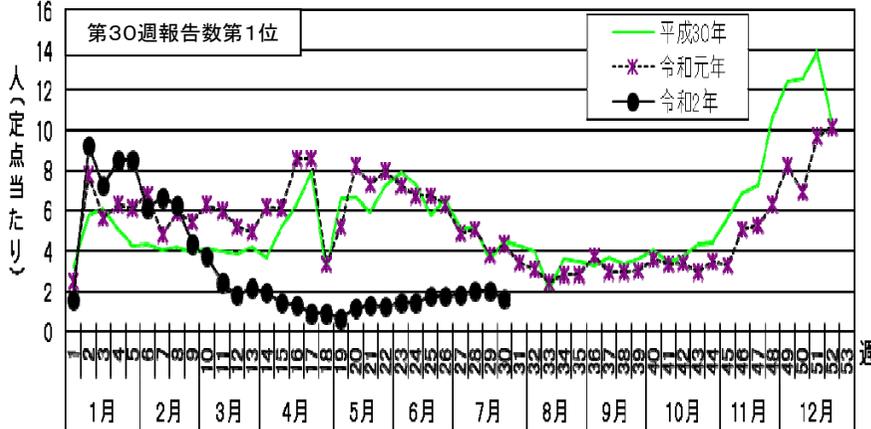
【感染症発生動向調査事業から】

令和2年7月20日（月）～令和2年7月26日（日）〔令和2年第30週〕の感染症発生状況

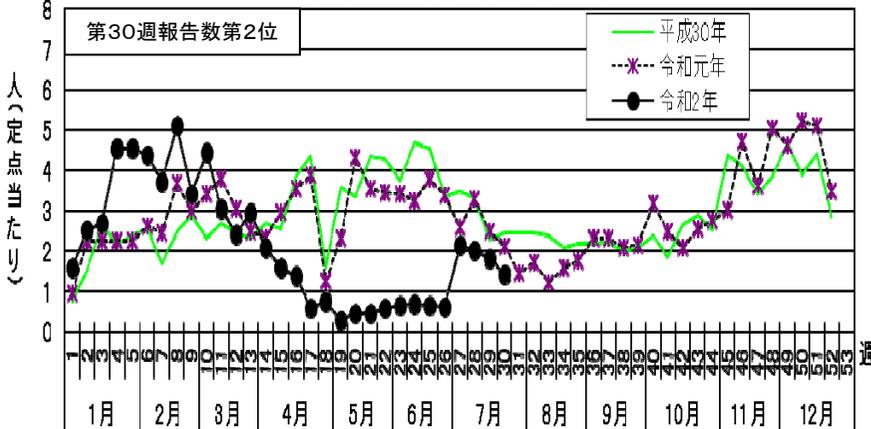
第30週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.62人と前週（2.00人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.41人と前週（1.81人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.78人と前週（0.51人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



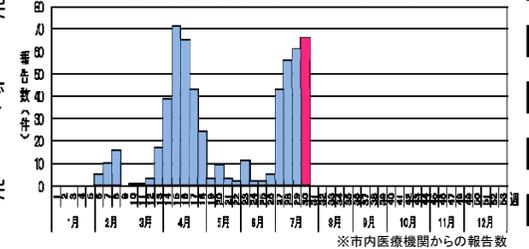
新型コロナウイルス感染症の流行と感染力

川崎市における令和2年第30週（7月20日～7月26日）の新型コロナウイルス感染症の報告数は、66件と5週連続で増加しています。

新型コロナウイルス感染症は、一般的に飛沫や接触感染により感染し、患者と濃厚接触した場合は約5%が感染すると報告されています。接触時間や接触の程度により感染のリスクは異なり、家族内では10～40%、一緒に食事をした場合は約7%、買い物などですれ違った場合は0.6%といわれています。

換気の悪い空間や狭い場所では、さらに感染のリスクが高まるので注意しましょう。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の診断週別発生状況(令和2年)



新型コロナウイルス感染症の二次感染力

